



## SEISA Africa Asia Bridge 2020

### SAAB 初のオンライン開催!

2020年11月14日(土)に「知繋(ちけい: 知ること、繋がること)」をコンセプトに、アフリカとアジアを学び、知り、そして繋ぐことを目的として開催している、SEISA Africa Asia Bridge 2020、通称 SAAB が開催されました。SAAB も第6回目となり、毎年何千人もの皆様にご参加頂き、国内外を問わず学びと関わり合いの輪を広めています。

今年は新型コロナウイルス感染予防のため、全てのプログラムをオンラインで、6チャンネル(メイン会場、JICA 横浜第二会場、知繋プロジェクト、LINK、全国星槎チャンネル、sTED)を同時配信しました。オンラインでどこにいても SAAB に参加できるということもあり、公式記録では過去最高の2万人の方々にご参加頂き、新たな可能性を生み

出すことができました。例年会場となっている横浜の星槎高校に加え、第二会場として JICA 横浜からもプログラムを発信し、UNDP 国連開発計画や JICA の皆様、各国大使の皆様など、多くのスペシャルゲストをお招きしました。また、元女子マラソン選手の有森裕子さん(1992年バルセロナ五輪で銀、1996年アトランタ五輪で銅と2大会連続メダル獲得)をはじめ、伊達公子さん(グランドスラムでベスト4進出、WTA ランキング最高4位)、現役パラリンピアン 階戸健太さん(2019年ジャパンパラ陸上100m優勝)を迎え、世界こども財団と星槎グループで受け入れているスポーツ奨学生を交えてスポーツを通じた国際協力についてのトークショーをお届けしました。

### SAAB × SDGs (持続可能な開発目標)

世界こども財団、そして星槎グループがこれまで長年にわたり実施してきた活動は、その多くが国際連合の SDGs の先駆けとなるものであり、SAAB においても SDGs は重要なキーワードのひとつとなっています。星槎に関わる生徒や職員たちも、SAAB を通じて世界と繋がっていることを実感し、共生社会の実現のために何が必要か学んできました。SDGs の17の目標を支える5つのP (People: 人間、Prosperity: 繁栄、Planet: 地球、Peace: 平和、Partnership: パートナースhip)、そして星槎の3つの約束「人を認める」「人を排除しない」「仲間を作る」をもとに、生徒たちも常に考え、学び、行動しています。

今年初の6チャンネル同時配信をし、プログラムもさらに豊富になりました。メイン会場では世界各国からゲストをお招きし、これからの世界のあり方や未来に向けての私たちの役割について考え、また、知繋プロジェクトでは「ブータン柔道の今」と題したブータン留学生との対談、バングラデシュの現状の紹介やミャンマーの学校とのオンライン交流を行い、相互理解を深めました。全国星槎チャンネルや sTED では世界の国々の風土や歴史、日本と世界との繋がり、



SDGsとは、2015年9月に国連サミットにおいて採択された目標であり、「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」の略称です。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とし、17の開発目標と169のターゲット、232の指標が定められています。

そして生徒一人ひとりが暮らしの中で環境に優しいことを提案するなど身近に出来ることを紹介しました。

このように、毎年 SAAB を通じて私たちは世界との繋がりがりや日常生活での取組みを再認識し、将来に向けて出来ることを模索し続けています。これからも世界に対し行動し続けることで、SDGs の達成目標にも繋がっていきます。

(FGC 木村友香)



NY とオンラインで繋ぎ、UNDP・JICA・SEISA での記念対談を実施



「パラアスリート夢トーク」階戸健太選手とのトークセッション



ミャンマーの学生とオンラインで交流



世界こども財団の活動紹介ブースを留学生もお手伝い



## オンラインアーチェリー大会『ブータン初インドアトーナメント開催』

世界こども財団は、ブータン・アーチェリー連盟（BAF）と2回目となる「ブータン&日本リモートアーチェリー交流大会」を2020年11月21日（土）と22日（日）に開催しました。8月のリモート大会同様、今回も2国間をZoomで繋ぎ、アーチェリーを介して交流を深めるためブータンから14名、日本から10名（JOC エリートアカデミー7名、星槎国際高校湘南3名）が出場しました。前回と違い、BAFからはパラ選手2名も出場しました。そしてコロナ禍の影響もありJOC エリートアカデミーはナショナルトレーニングセンター、星槎国際高校湘南アーチェリー部は星槎湘南大磯キャンパスのアーチェリー場から繋いでの大会となりました。Zoomならではのリアルとバーチャルがミックスされたユニークな大会となりました。そして、全日本アーチェリー連盟（全ア連）様の協力と支援のもと、ブータン史上初となるインドアアーチェリー大会を開催することができました。

インドアは、18mの距離から制限時間2分以内に3射ずつ

10回射ち、計60射のラウンドを行う室内のアーチェリー競技です。インドアアーチェリーの的は、アウトドアのアーチェリーと大きさが異なり、射距離が短い分小さいサイズになっています。今大会に向けて何より困難を極めたのがブータンには公式インドア専用の的が用意できないこと、そして18mレンジを行う射場がないことから大会開催自体が危ぶまれました。しかし、選手とコーチの熱い思いが組織を動かし実現することができました。インドア専用の的は、全ア連様の協力により韓国FIVICSからブータンへ直送、インドア大会射場はブータンバトミントン連盟の協力からバトミントン場を借りて行うことができました。今回の取り組みは、現地メディアでも大きく紹介されました。結果は、BAF キンレイ・ツェリン選手が1200点中1161点をスコアし優勝。星槎国際高校湘南に通うニドウ選手とソナム選手も健闘し、ソナム選手はBAF カルマ選手と同点同位、試合後はZoom越しにお互いに健闘を称え合いました。

(FGC 石田博彰)



ブータン王国史上初インドアで射るブータンチーム



星槎国際高校湘南アーチェリー部



Zoomで両国間交流

## オンライン空手大会

2020年11月26日（土）、ミャンマーからスポーツ奨学生（空手道）として来日し、星槎国際高校湘南に通うヤミン選手、スー選手、カウン選手の3名が母国ミャンマー空手連盟からの招待を受け、オンラインによる大会に参加しました。この大会はZoomを介して行われ、参加選手一人ひとりがカメラの前で形を披露し、得点を競い合いました。

大会はU12、14、Cadet、Junior、U21の5つのカテゴリーに分けられ、星槎国際高校湘南の3選手は、男子10名、女子5名が参加したJuniorカテゴリーに出場しました。普段

開催の大会に参加出来たこと自体に大きな意味があります。これからも常に自分たちに出来ることを模索し続け、精一杯活動して参ります。

(FGC 宮川翔太)



ミャンマー空手連盟と大会前の打ち合わせ

とは異なる形式での大会に戸惑いつつも、各々練習してきた形を一生懸命披露しました。結果は、女子の部でヤミン選手が3位、スー選手が5位、男子の部でカウン選手が3位となりました。こうして日本にいながらも母国



オンラインで形の慈恩（ジオン）を披露するスー選手



初の試みとなるオンライン大会



## 日本語能力試験に挑む!

2020年12月6日(日)、星槎国際高校湘南、星槎大学、星槎道都大学に所属する留学生たちが、日本語能力試験をそれぞれ受験しました。日本語能力試験は、公益財団法人日本国際教育支援協会と独立行政法人国際交流基金が主催する、日本語を母語としない人を対象に日本語能力を認定する検定試験です。留学生たちは日頃の学習の成果を発揮し、自分の日本語の実力を試す機会として、N5からN2までそれぞれのレベルでチャレンジしました。この日に向けて留学生は、漢字や語彙、長文読解、ヒアリングなど、様々な角度から日本語学習に取り組んできました。試験が終わってホッとしたり、「難しかった」とため息をついたり、自信たっぷりにVサインをしたりと、皆、様々な様子でしたが、テストの結果に関わらず、一所懸命学習したことは、将来きっと役に立つはずです。今後ますます日本語力を磨き、学習を続けていきます。

(FGC 小野木 愛)



試験会場にて記念撮影  
(写真左：ナナエル君、中央：カウン君、右：ダイヤモンド)



試験会場にて記念撮影  
(写真左：メルハワイ君、中央：ヤミンさん、右：スーさん)

## ダイヤモンド君、星槎オリンピック・スピーチ部門「特別賞受賞」!

2020年12月4日(金)、星槎国際高校湘南で学ぶエリトリアからの留学生ダイヤモンド君が星槎オリンピック・クリエイティブのスピーチ部門にオープン参加として出場し、「星槎で学んだこと」という題目で特別賞を受賞しました。スピーチ発表まで挨拶の仕方や挨拶をするタイミングなどの日本独特の所作を何度も確認し、最初は慣れない様子でしたが最後は日本人にも負けないくらいの堂々とした姿勢で臨むことができました。スピーチ後のインタビューで「スピーチを通して何を伝えたいか」という質問に対して、「外国人から見た日本はどういったものなのかを感じて欲しい。また、このような大きな舞台で発表できたことはとても光栄なことだった。この経験を通してもっと成長していきたい」と答えていました。彼にとって日本語でスピーチをすることは大きな挑戦でしたが、この経験を通して自信につながり成長した様にも見えました。これからもこのようなイベントを通して留学生が輝けるように引き続きサポートしていきます。

(FGC 木村友香)



賞状を掲げるダイヤモンド君



スピーチ発表中のダイヤモンド君



Zoom と対面で行われた授賞式



表彰式が終わって記念写真に応じる受賞者達

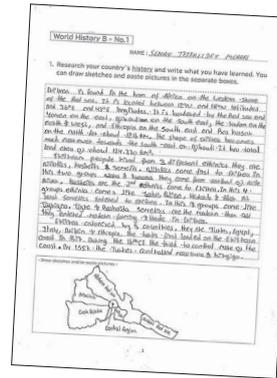


## エリトリア、ミャンマーの新留学生 来日へ向けて

昨年のFGCニュース23号で、新型コロナウイルスの影響で未だ来日できていないエリトリア（陸上競技、バスケットボール）男女6名、ミャンマー（空手）男女2名の高校生の現地での活動をご紹介します。世界こども財団と星槎グループが支援を続けているエリトリア、ミャンマー、ブータンの各国では、その後も全力を挙げて感染予防対策に取り組み、感染者数も低い数字に抑え続けていますが、それでも通常の生活を取り戻すには至っていません。エリトリアでは2021年に入って感染者数がやや増加傾向にあり、政府は再度、対策を強化しています。そのため上記の生徒たちも未だ来日が叶わず、現地でその時が来るのを待っている状況ですが、活動が制限される中でも引き続き、それぞれの国で練習や学習に励んでいます。学習面では来日後に少しでもスムーズに日本の学校に馴染めるよう、また単位取得に繋がるように、日本からレポートを送り、英語、数学、科学、世界史、

そして日本語のワークシートに取り組んでいます。今回はエリトリアのセナイ君から写真とメッセージが届きましたので、ご紹介いたします。セナイ君は2019年にエリトリアを訪問した際、星槎の陸上コーチも驚くほどの抜群の走りを見せてくれました。来日後の日本での活躍が大いに期待されます。

(FGC 石井洋祐)



世界史のレポートとして  
エリトリアの歴史をリサーチ

### セナイ・テスファリデット・メハリ君

私は日本で陸上競技と勉強に取り組む奨学生としての機会をいただいたことをとても感謝しています。残念ながらコロナウイルスの影響で来日が遅れていますが、前向きに準備に取り組んでいます。星槎の生徒として、ファミリーの一員になる日を心待ちにしています。



家族でエリトリアの伝統料理「インジェラ」を囲むセナイ君 (写真右)



広大なエリトリアの大地でトレーニング (写真中央)

事務局より

## ● 2021年度 個人会員・法人会員を募集しています

1月より世界こども財団新年度がスタートしました。

昨年度は法人会員 54 社/団体、個人会員 366 名もの方々に支えられ、活動を行って参りました。今年度におきましても私たちと一緒に世界のこどもたちに手を差し伸べる「仲間」を募っております。こどもたちの未来を創る活動にご参加いただけませんか？

### ● 賛助会員

**個人会員** 年会費 6,000 円/一口

**法人会員** 年会費 120,000 円/一口

### ● ご寄付

世界のこどもたちに、将来の夢と希望を！  
金額を問わず、随時受け付けております。  
詳しくは、世界こども財団のホームページ、  
またはお気軽に事務局までお問合わせ下さい。

## ● 寄付型自動販売機設置のお願い

現在、世界こども財団では各飲料メーカーと提携し、「寄付型自動販売機」を積極的に展開しています。購入頂いた飲み物の売り上げの一部が当財団に寄付される仕組みとなっており、こどもたちの未来へと繋がっています。自動販売機の設置費用や管理運営等はございません。少しでも興味のある方、設置しても良いという方、是非ともご連絡をお待ちしております。



2021年1月発行

公益財団法人  
世界こども財団

〒259-0111 神奈川県中郡大磯町国府本郷 1805-2 (星槎グループ内)  
TEL. 0463-74-5359 FAX. 0463-74-5374 E-mail: fgc@fgc.or.jp  
ホームページ: <http://www.fgc.or.jp> Facebook: 「世界こども財団」で検索！  
印刷: フルサワ印刷株式会社 制作: 岡村直実 (JC ユニット)

